

2023年8月10日開示

東映株式会社

2024年3月期 第1四半期説明資料 (2023/4～2023/6)

▲公式LINE【東映IR News】



▲公式Twitter【東映公式ニュース】

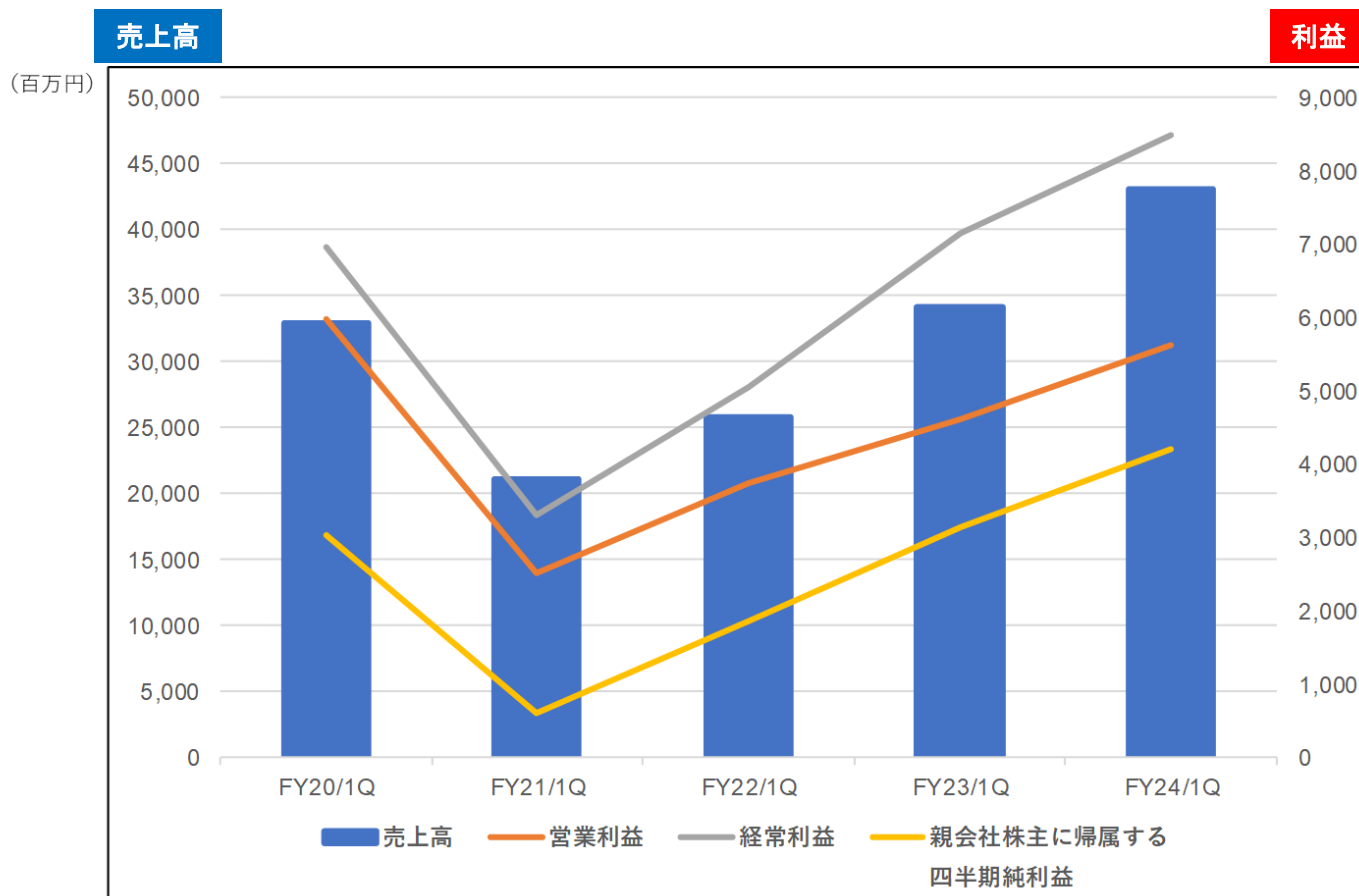


2024年3月期第1四半期決算（連結）

	FY20/1Q	FY21/1Q	FY22/1Q	FY23/1Q	FY24/1Q	前期比較	
売上高	32,827	21,019	25,805	34,103	43,063	8,960	(26.3%)
売上原価	19,678	12,482	15,122	21,565	28,617	7,052	(32.7%)
販管費	7,179	6,019	6,947	7,915	8,837	922	(11.6%)
営業利益	5,969	2,516	3,735	4,622	5,608	986	(21.3%)
経常利益	6,968	3,311	5,040	7,148	8,489	1,341	(18.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,042	602	1,850	3,142	4,199	1,057	(33.6%)

(百万円)

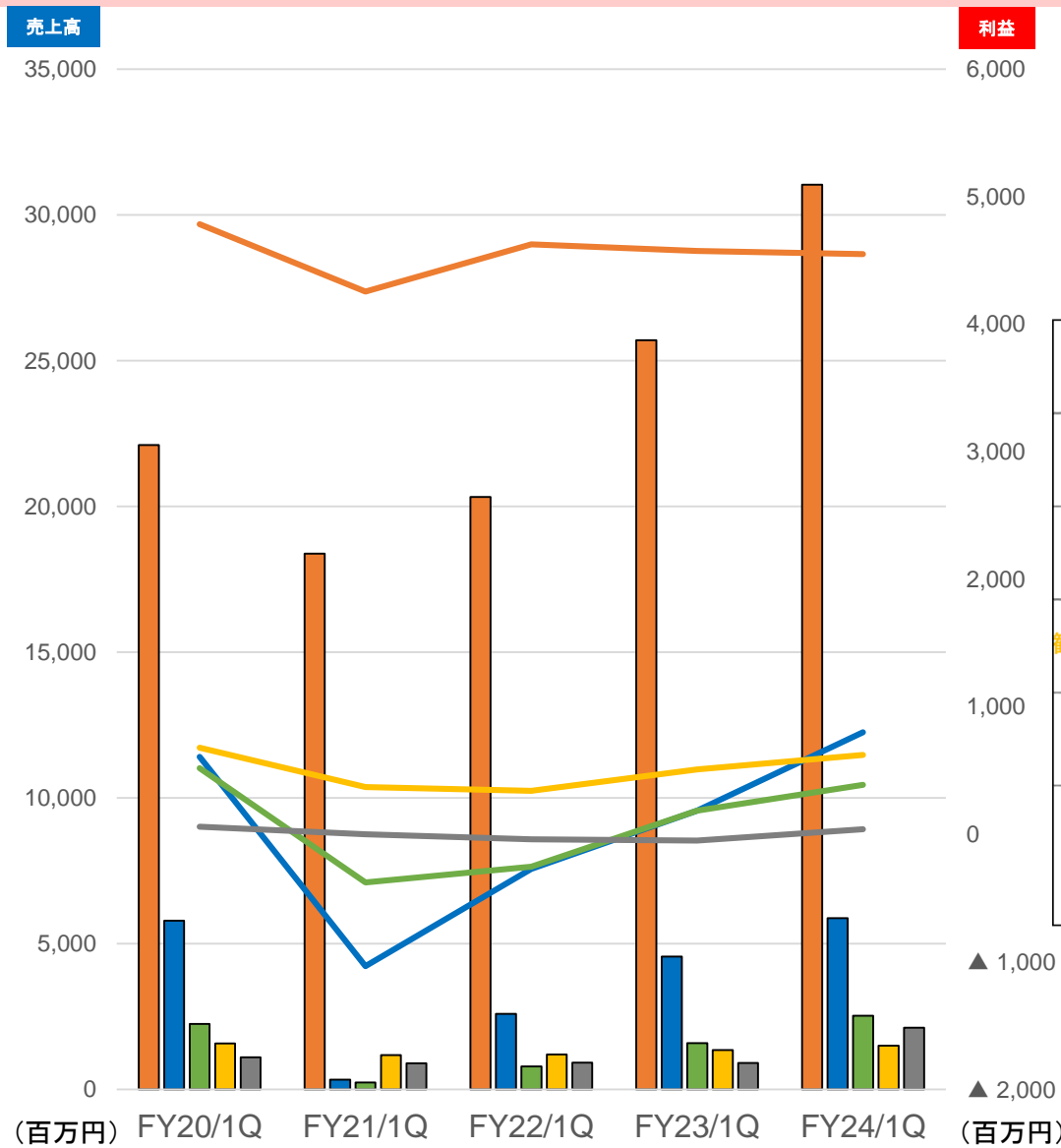
※FY=会計年度：FY24/1Qは2023年4月～2023年6月の期間



【概況】

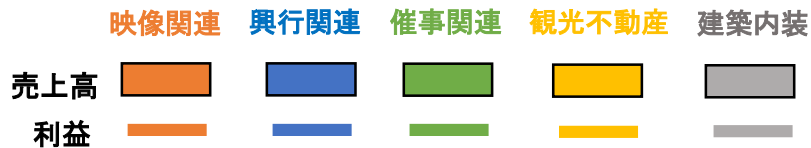
・2024年3月期第1四半期は「売上高」「経常利益」「当期利益」いずれも過去最高を更新、「営業利益」は歴代3位の成績でした。

2024年3月期第1四半期 セグメント別分析 (連結)



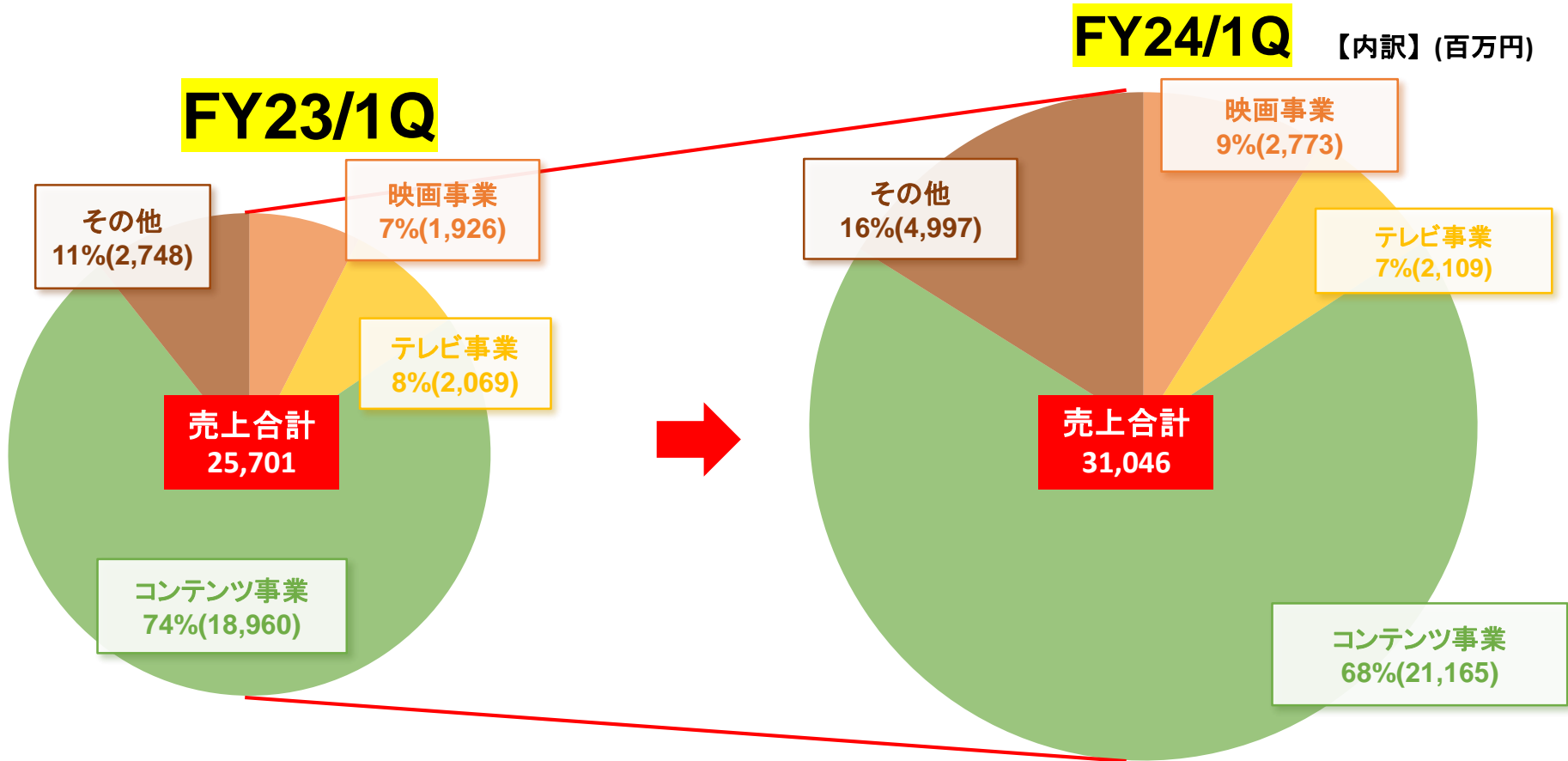
(百万円)

		FY23/1Q	FY24/1Q	前期比較	
映像関連事業	売上高	25,701	31,045	5,344	(20.8%)
	利益	4,575	4,550	▲ 25	(▲ 0.5%)
興行関連事業	売上高	4,557	5,871	1,314	(28.8%)
	利益	273	800	527	(192.8%)
催事関連事業	売上高	1,590	2,526	936	(58.8%)
	利益	186	386	200	(107.2%)
観光不動産事業	売上高	1,347	1,501	154	(11.5%)
	利益	510	622	112	(21.9%)
建築内装事業	売上高	906	2,118	1,212	(133.7%)
	利益	▲ 48	40	88	(-)
売上高合計		34,103	43,063	8,960	(26.3%)
利益調整額		▲ 847	▲ 791	56	
利益合計		4,622	5,608	986	(21.3%)



(百万円)

		FY23/1Q	FY24/1Q	増減率
映像関連事業	売上高	25,701	31,045	5,344 (20.8%)
	セグメント利益	4,575	4,550	▲ 25 (▲0.5%)



※FY24/1Q「その他」は、東映アニメーションの収入、東映エージェンシーの収入が主な増収内訳になります。

【映画事業】 ⇒ 売上高2,773百万円 (前年同期より44.0%増)

提携製作作品等13本を配給し、『劇場版アイドルリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』がヒット、前連結会計年度における公開作品のうち『THE FIRST SLAM DUNK』(2022年12月3日公開)が引き続き好稼働しました。

一方、当第1四半期連結累計期間に公開した『聖闘士星矢 The Beginning』の棚卸資産評価損を計上したこと等が利益を押し下げる要因となりました。

映画事業の今後の展開等

年間2本の大型作品を製作

東京撮影所、京都撮影所でそれぞれ1本の大型作品を企画製作予定です。

当社が長年に渡り培ってきた映画製作のノウハウや技術は他社にはない当社の強みです。

特に時代劇は本年1月27日に劇場公開した『レジェンド&バタフライ』を京都撮影所で製作し、劇場や配信サービスを通して国内外の多くの方にご好評をいただきました。

今後も継続的に大型作品を含む劇映画を製作し、当社の強みである映画製作のノウハウや技術を継承するとともに、世界の皆様に感動を与える「ものがたり」を模索していきます。

マーケティングについて

2023年4月にマーケティング室を設立しました。

マーケティング室が中心となり、多くの人に楽しんでいただける作品の創出と魅力的なラインナップを編成することをモットーに、企画段階からマーケティングを導入していきます。収集したデータをもとにターゲット層を明確化し、よりヒットする映画企画を生み出すための基盤づくりを目指します。



【テレビ事業】 ⇒ 売上高2,109百万円 (前年同期より2.0%増)

テレビ制作営業は、『特捜9』『刑事7人』『王様戦隊キングオージャー』等を制作して作品内容の充実と受注本数の確保に努めました。木曜ミステリー枠終了に伴い、連ドラとしての『警視庁捜査一課長』が制作されなかったことで前年同期比マイナスとなりましたが、下半期の受注は確保し、通年では前期とほぼ同じ売り上げを見込んでおります。また、『仮面ライダー』のキャラクター商品では、子供向け玩具だけでなく大人向け、その中でも新規IP『シン・仮面ライダー』の商品が業績に貢献し、シリーズIP価値の最大化に向けた後押しとなっています。

【コンテンツ事業】 ⇒ 売上高21,165百万円 (前年同期より11.6%増)

●配信

- ・『レジェンド&バタフライ』『シン・仮面ライダー』等の配信権販売が増収増益に大きく貢献しました。

●国内番組販売

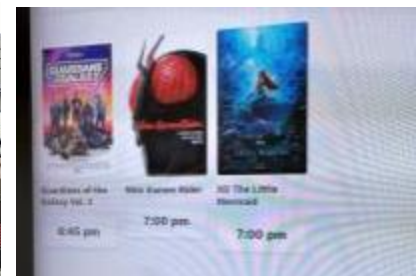
- ・CS局やBS局を中心に時代劇やアニメーション作品を含むアーカイブ作品を販売し前年同期より微増となりました。

●国内ビデオグラム・機内上映

- ・「仮面ライダー」及び「スーパー戦隊」シリーズ等の特撮関連の作品が貢献し利益は予想通りとなりました。
- ・機内上映はコロナ禍前の水準に戻りました。

●国際

- ・『THE FIRST SLAM DUNK』の海外上映権販売に加え、『シン・仮面ライダー』が国内に留まらず北米など海外でも好評を博しました。
- ・『シン・仮面ライダー』を全米約800館で5月31日にイベント上映し、単日全米5位(1位は『リトル・マーメイド』)の興行収入、館アベレージは2位を記録しました。
- ・現地(ロサンゼルス)には俳優・池松壮亮さんがかけつけ仮面ライダーファンと交流。会場は大いに盛り上がり、アメリカにおける仮面ライダーの人気の高さが伺えました。



※カリフォルニア州カルバーシティ Cinemark 18 & XD

テレビ事業/コンテンツ事業の今後の展開等

▲テレビ事業

物価高のみならず、生活環境や嗜好等の変化による厳しい影響は今後も続くと予想されます。更なる少子化も進む中、グローバル市場においても『仮面ライダー』『スーパー戦隊』の展開を強化し、シリーズIP価値の拡大をはかります。同時に多様な顧客、メディアにも対応しうる新たなIPの創出にも取り組んでいきます。

▲コンテンツ事業：配信

『おとななじみ』『忌怪島』『リボルバー・リリー』『キリエのうた』といった期待の映画ラインナップを主力に各配信事業者へ展開し、配信収益を最大化していきます。



▲コンテンツ事業：国際

『禁じられた遊び』は58の国と地域から上映・配信のオファーが殺到しました。ジャパニーズホラーは安定的に海外で人気があります。

こうした海外で人気の高いジャンルを中心に、海外で既に知名度のあるアーカイブ作品を見極め、リメイクやローカライズ化の取り組みを検討しています。

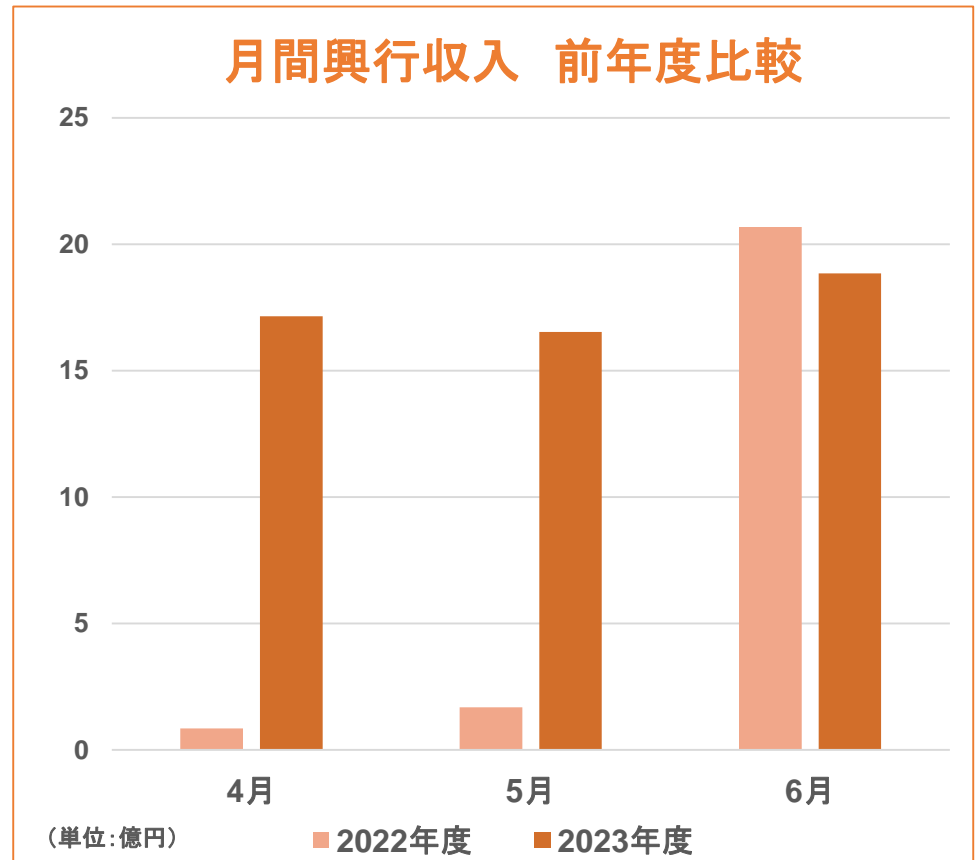


2024年3月期 主要映画作品の稼働状況

作品名	公開日	動員	興行収入 (億円)
THE FIRST SLAM DUNK	12月3日	約1,049万人	151.2
レジェンド&バタフライ	1月27日	約190万人	24.7
シン・仮面ライダー	3月17日	約158万人	23.3
劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD	5月20日	約124万人	22.1

※動員/興行収入：2023年8月3日時点

	2022年度	2023年度	前年度比
4月	0.84億円	17.15億円	2030.5%
5月	1.68億円	16.53億円	979.6%
6月	20.67億円	18.84億円	91.1%
合計	23.21億円	52.51億円	226.3%



(百万円)

		FY23/1Q	FY24/1Q	増減率	
興行関連事業	売上高	4,557	5,871	1,314	(28.8%)
	セグメント利益	273	800	527	(192.8%)

⇒売上高5,871百万円 (前年同期より28.8%増)

第1四半期は国内映画興行業界全体は好調であり興行成績は前年同期比137%と上向き、2000年以降で4月は歴代3位、5月は歴代1位、6月は歴代3位でした。それにより当セグメントの成績も好調でした。

また株式会社ティ・ジョイが運営するシネマコンプレックスであるティ・ジョイの飲食販売は、前年同期比40%の増加となりました。

(百万円)

		FY23/1Q	FY24/1Q	増減率	
催事関連事業	売上高	1,590	2,526	936	(58.8%)
	セグメント利益	186	386	200	(107.2%)

【催事事業】 ⇒売上高2,093百万円 (前年同期より78.2%増)

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、催事事業はコロナ禍前の水準に戻りつつあります。

「暴太郎戦隊ドンブラザーズファイナルライブツアー2023」や「生誕50周年記念 THE仮面ライダー展」等の各種イベントを開催したほか、映画関連商品の販売及び催事関連商品の通信販売を行いました。

【東映太秦映画村】 ⇒売上高432百万円 (前年同期より4.0%増)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へ移行されたのも影響し、東映太秦映画村の入場者数はコロナ前の80%まで回復しました。また、施設内利用料の値上げにより客単価が上がったため売上高はコロナ前の91%まで回復しました。

催事関連事業の今後の展開等

コロナ禍が明け、イベント事業は回復基調になってきました。海外文化催事は、コロナのため海外の美術館等との交渉がストップしておりましたが、交渉を再開しています。

また、当社ではコロナ禍でイベントが開催できない間、仮面ライダーストアや東映オンラインストアでの商品販売事業に力を入れてきました。その結果、仮面ライダーストアは2023年3月期において前年対比239%、また東映オンラインストアは前年対比248%と順調に伸びています。今後も商品事業に引き続き注力し、事業を拡大させていきます。

さらに新たな試みとして、国内文化催事の海外展開を今後展開していきます。



仮面ライダーストア東京（東京キャラクターストリート内常設）



仮面ライダーストアinイオンモール盛岡南
期間：2023年7月21日～2023年8月20日

(百万円)

		FY23/1Q	FY24/1Q	増減率
観光不動産事業	売上高	1,347	1,501	154 (11.5%)
	セグメント利益	510	622	112 (21.9%)

【不動産賃貸業】 ⇒ 売上高1,081百万円 (前年同期より3.2%増)

「プラッツ大泉」「オズスタジオシティ」「渋谷東映プラザ」「新宿三丁目イーストビル」「広島東映プラザ」等の賃貸施設が稼働いたしました。

【ホテル業】 ⇒ 売上高419百万円 (前年同期より40.5%増)

インバウンド需要や団体利用の回復により、ホテル業の売上高は前年同期比40%増加しました。

(百万円)

		FY23/1Q	FY24/1Q	増減率
建築内装事業	売上高	906	2,118	1,212 (133.7%)
	セグメント利益	▲ 48	40	88 (-)

【建築内装事業】 ⇒ 売上高2,118百万円 (前年同期より133.7%増)

映画館関係ではIMAX改修工事等が売上高に貢献しました。また、老健施設関係では居室改修工事を幅広く受注し堅調に推移しました。

不動産賃貸業の今後の展開等

<東大泉2丁目再開発計画に関して>

当社は、当社が土地建物を所有し、福利厚生施設として使用しているテニスコート、および社員寮（東京都練馬区東大泉二丁目1番19号）を賃貸マンションに建替えます。

1986年竣工以来36年間、男子寮として使用してきましたが、近年入寮率やテニスコートの使用率の落ち込みが著しく、この度、賃貸物件として再開発することとなりました。経営基盤を支える安定収益として資産を活用していきます。

・再開発建物の概要（予定）

【構造・規模】	共同住宅 鉄筋コンクリート造地上6階建
【建築面積】	1,512.42㎡（457.51坪）
【延床面積】	6,605.05㎡（1,998.02坪）
【専有面積】	4651.84㎡（1407.18坪）
【総戸数】	総戸数 89戸（43.46㎡～62.04㎡）1LDK～2LDK

・工事日程（予定）

【解体着手】	2023年	7月1日
【着工】	2024年	1月
【竣工】	2025年	5月

※資機材の納期遅延等により工期延長の可能性がありますが

・投資金額 23億円



參考資料

東映グループのビジネスモデル

① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ・ 劇場映画 4,400作品以上
- ・ テレビ映画 38,000話以上
- ・ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

- ・ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



東京撮影所

ポストプロ



東映デジタルセンター

アニメ



大泉スタジオ



京都撮影所



東映ラボ・テック



② マルチユース展開

- ・ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャネルをカバー

配給

興行

テレビ放送

配信

DVD Blu-ray

商品化

書籍化

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTubeOfficial



③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加

IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね



企画

製作



マルチ
ユース



利益の積重ね



企画

製作



マルチ
ユース



IP

接点
増加

中長期ビジョン「TOEI NEW WAVE 2033」で示した重点施策「映像事業収益の最大化」「IPライフサイクルの長期化」「グローバル展開へのチャレンジ」に関して下記のような取り組みを行っています。

【キャラクター戦略部の設立】

当社はキャラクター戦略部を2023年7月1日付で設立いたしました。
今後、キャラクタービジネスをより戦略的かつ統合的に展開していきます。

＜詳細と設立の目的＞

特徴

当部は代表取締役会長ならびに社長の直轄部署となります。
当部を中心に当社グループ内の各セクションを横断してキャラクタービジネスを進めます。これまで当社のキャラクターはテレビ作品として創出されるため、テレビ以外のメディア発のキャラクターが生まれにくい状況にありました。
従来の組織に当てはまらばいビジネスを構築し、既存のセクションだけではできなかったことに柔軟に対応します。
業務の全体最適化を図ることでこれまでよりも意思決定を迅速化し、個々のキャラクターIPの収益最大化を目指します。

構成スタッフ

『平成仮面ライダー』シリーズをはじめ数々のキャラクター作品をプロデュースしてきた白倉伸一郎上席執行役員が部長を務め、スタッフには二次利用セクションのスペシャリストを配しました。
各セクション業務を熟知したものがセクション間を繋ぎ、機動的な展開を目指します。

アジア、中南米、欧米に向けたキャラクターを開発、またビジネスのエリア戦略を検討立案し、グローバル展開を加速してまいります。

※組織図イメージ

代表取締役会長・社長

キャラクター戦略部



【株式会社FLARE CREATORSの設立】

世界市場を意識したオリジナル映像企画等を開発・プロデュースする新会社

当社は、東映アニメーション株式会社との合併会社として、オリジナルコンテンツの企画開発及びプロデュースを行う「株式会社FLARE CREATORS」を設立しました。

■会社概要

- ・社名 株式会社FLARE CREATORS (フレアクリエイターズ)
- ・住所 〒162-0833 東京都新宿区笹笥町13番地 グローバル新神楽坂6F
※9月開業予定
- ・代表者 代表取締役社長 北崎広実
- ・設立日 2023年6月28日
- ・資本金 1億5000万円 (出資比率：東映50%、東映アニメーション50%)



■事業概要

実写および2D&3Dアニメーションの企画開発に特化した会社として株式会社FLARE CREATORSを設立しました。

メディアは映画、テレビ、配信を問わず、また日本だけでなく世界に向けて挑戦できる作品を企画立案します。

東映および東映アニメーションが長年培った企画のノウハウを活かし、プロットや脚本開発はもちろん、より具体的な完成性イメージを共有するためのパイロット版の作成にも予算を投下し、早い段階からの確かなプロデュースやパートナーへの営業、ブランディングの共有などをスムーズに実現します。また、外部パートナー（クリエイター）とも連携を強化していきます。

開発した企画は東映および東映アニメーションだけでなく、他社への販売も可能としています。

【映画】

- 8月11日 リボルバー・リリー
- 8月25日 Gメン
- 9月8日 禁じられた遊び
- 9月15日 映画プリキュアオールスターズF
- 9月29日 BAD LANDS バッド・ランズ
- 10月13日 キリエのうた
- 10月27日 デジモンアドベンチャー02 THE BEGINNING
- 11月10日 法廷遊戯
- 11月17日 鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎
- 11月23日 翔んで埼玉 ～琵琶湖より愛をこめて～
- 2024年2月9日 身代わり忠臣蔵



【テレビ】

- 2023年3月5日～ 『王様戦隊キングオージャー』
- 2023年9月3日～ 『仮面ライダーガッチャード』
- 2023年8月16日～ 『科捜研の女 season23』



【配信】

- 2023年8月27日 『爆竜戦隊アバレンジャーwithドンブラザーズ』
- 2023年10月 『仮面ライダーアウトサイダーズ ep.4 狂った時の運行とゼインの正体』
- 2023年 『暴太郎戦隊ドンブラザーズVS暴太郎戦隊ドンブリーズ』



【催事】

- ・『ひろがるスカイ！プリキュア おでかけ！ひろがるワールド！』2023年夏以降 東京ほか
- ・『仮面ライダー×スーパー戦隊Wヒーロー夏祭り2023』2023年夏 東京
- ・『民藝 MINGEIー美は暮らしのなかにある』2023年夏以降 大阪ほか
- ・『ぞうのエルマー展』2023年夏以降 兵庫ほか
- ・『北斗の拳40周年大原画展 ～愛をとりもどせ!!～』2023年秋以降 東京ほか

【ショー・舞台】

- ・『朗読劇『極楽牢屋敷』（木下半太版四谷怪談）』2023』2023年夏 東京
- ・『仮面ライダーギーツ ファイナルステージ』2023年秋以降 大阪ほか



【商品】

- ・『仮面ライダーストア』2023年夏以降 盛岡ほか



本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ

東映株式会社 経営戦略部広報室

TEL:03-3535-7564

担当：多田（オオタ）you_ota@toei.co.jp

内藤 meg_naito@toei.co.jp

奥本 mas_okumoto@toei.co.jp